

- 海外セミナー参加レポート2017 (ISMTE・Peer Review Congress)
- 【“新”機能紹介】 Conversation Tool (掲示板ツール)
- 【機能紹介】 論文種別ごとの説明文を投稿画面上に表示する

ジャーナルプロモーション におけるSNSの可能性

ISMTE (国際マネージング/テクニカル・エディター学会)
10th North American Conference
August 10-11, 2017 Denver, Colorado, USA



ISMTE (国際マネージング/テクニカル・エディター学会) はジャーナルの査読や編集事務の質の向上を目指し、2008年設立された学会です。毎年、北米、ヨーロッパ、アジアで総会を開催しています。ISMTEでは毎年、多数のセッションがありますが、今回はその中から杏林舎が現在取り組んでいる下記のテーマに絞って参加しました。

SNSを通じたジャーナルの宣伝

SNS関連のセッションでは、SNSやKUDOSというオンラインツールの紹介とそれらを用いた成功事例について発表がありました。KUDOSは研究者、出版社、そして学会がそれぞれ発表した論文やジャーナル、プレスリリース等を一括でTwitter, Facebook, LinkedIn等に共有できるプラットフォームを展開しています。サービスの売

りは1)簡単操作、2)情報の価値の向上、3)しっかりしたサポート体制であるとのことです。

報告によると欧米の研究者はLinkedInとFacebookの利用率が高く、出版社や学会はTwitter、Facebookの利用率が高い様です。そして、これらのサービス内における実績の公開や議論、情報の共有が非常に活発に行われています。しかし、SNS上における仕事とプライベートの境界線がなくなることに、多少の反発がある様ですが、それ以上に研究者にとっては自分の実績をより広く、そして多くの方々に知ってもらい、話題性をキープさせる事を優先させている様です。

その他のオンラインリソースを用いた広報活動の例で興味深いのはYouTubeとPodcastを活用した例です。YouTubeの活用は総会やセミナー等のライブ配信や実施後の配信、加えて新たな医療技術や治療方法等について配信します。Podcastでは著名な学会員等の紹介やインタビュー、ジャーナルや学会がカバーする領域に関する最新情報等の配信を定期的に行い、よりニュースに近い内容のようです。この様に、用途や目的

✖ 海外セミナー参加レポート2017

ISMTE (国際マネージング/テクニカル・エディター学会)
10th North American Conference

Peer Review Congress (ピア・レビュー議会)
Eighth International Congress on Peer Review and Scientific Publication



に合わせたオンラインメディアの使い分けが進んでいます。また、これらは会員向けだけではなく、会員以外向けのコンテンツが半分以上を占めているとのこと。

特に規模の大きな学会では独自のメディアチームを学会内に持ち、その部署がWebを活用した宣伝・広報活動を行っています。今後、杏林舎としても学会へのサポート活動の一環として、この様な宣伝やプロモーションサポートも提供の機会を探していければと思います。

新しいジャーナルの創刊について

杏林舎でも携っている新ジャーナルの創刊は、現在、世界中のジャーナル創刊の波の中にあることが再確認できました。ただし、欧米と国内の差は欧米では既存のジャーナルが領域の分離(例:循環器領域の学会が「不整脈」や「心筋梗塞」に特化したジャーナルを発行するなど)が中心の様です。このため、既に「土台」が有る上での新規創刊が中心です。創刊までのプロセスについては、これまで杏林舎が提供してきた内容に問題が無いことが確認できました。今後も創刊、そしてその後のサポートに関する情報収集の強化を図りたいと思います。

ジャーナルの編集・査読に関するデータについて

杏林舎ではこれまでジャーナルの投稿・

査読状況に関するデータの作成と分析を行い、担当ジャーナルの編集委員会に提供していますが、これまで提供してきた情報は海外のジャーナルと大きな相違はありませんでした。しかし、今後は少し視点を変えて、投稿者の声を把握し、フィードバックする必要性を感じました。

その理由は我々が提供している状況は編集委員会や運営側の視点からとらえた情報であり、そこには投稿者の意見が反映されていない、ということが挙げられます。より良いジャーナルを目指す為には、投稿者からみた感想や意見を収集し、実際の運営に反映させることも大切であると考えられるからです。

全体な総括としては、データ分析、ジャーナル創刊等、我々のサービスを再確認する事が出来たことと、また、SNSでのジャーナルプロモーションという新たな可能性を発掘できたことが大きな収穫でした。特にSNSについては、様々な背景や研究者の利用環境等、事前のリサーチが重要になりますが、非常に有効な広報リソースだと思われれます。また、その他の内容についても、常に変わり続ける業界の中で、少しでもお客様のお役に立てる様、今後も情報収集を継続することが必要だと感じました。

Peer Review Congress (ピア・レビュー議会) は医学系ジャーナルのJAMA, BMJ, および米スタンフォード大学のMETRICSが4年に1度、共同開催する、学術界におけるピア・レビュー査読の質の向上を目指した議会です。開催中は様々な分野のピアレビューに携る方々による査読に関する各種データや研究結果の発表が行われます。議会中はClinical Trial (CT=臨床試験) や研究デザインの重要性等に関するプレゼンテーションが多く見受けられました。

ICMJEではClinical Trialを行う際に試験内容をアメリカのClinicalTrials.govや日本のUMIN臨床試験登録システム等の指定された臨床試験登録試験への登録を義務づけていますが、実際にどれ位の試験が登録され、どの程度が論文として公開されているか、またはどの程度の結果が公開されているか等について等の分析内容が多くありました。

画像の不正改ざんチェック

その他には遺伝学領域ジャーナルにおけるRetractionの分析(結果として倫理違反とコピーや二重投稿が多い)の発表があり

ました。その中で特に興味深い内容が画像の不正改ざんに関する内容です。そのジャーナルでは論文採用後に、画像の改ざんチェックを2009年に導入しており、それ以降、画像改ざんの疑いのある論文が7年間で年間22から0に減ったとのこと。

そもそも画像を改ざんすること自体が問題ではあるのですが、それにもかかわらず画像の改ざんまでチェックしているジャーナルが少ないと思われます。そんな中、今回の発表では本文だけではなく、画像自体も不正を防ぐことの大切さについて学ぶことができました。

新しい取り組み Patient Review「患者による査読」

その他には、BMJの査読への新しい取り組みとして“Patient Review”と言う手法が紹介されました。Patient Reviewとは直訳すると「患者による査読」です。とは言っても、これは患者が自分の治療について書かれた論文を査読するのではなく、過去に同じ様な治療を受けたことのある患者さんが、似たような症状や治療方法などについて書かれた論文を査読する、というこ

れまでには無い、非常に興味深い査読手法です。すべての論文がPatient Reviewの対象となる訳ではなく、Editorが対象と判断した論文のみが対象になり、選出された方に査読依頼が送信されるのですが、依頼に対する査読の承諾率は42%だそうです。

その他には領域を超えて、様々な論文について議論を可能にするPubPeerの紹介 <https://pubpeer.com/>、そしてその議論の中で見つかった倫理不正等の発表がありました。



今回の会議では、前回のISMTEが我々の取り組みへの確認であったのに対し、新たな課題の発見が多くありました。また同時に、いくつかの分野において情報収集が足りていないことも実感しました。今後は、より一層、知識を深める様に努力していきたいです。

Peer Review Congress (ピア・レビュー議会)
Eighth International Congress on Peer Review and Scientific Publication
September 10-12, 2017 Chicago, Illinois, USA

ピア・レビューの質の向上



新機能紹介

Conversation Tool (掲示板ツール)

S1Mでは審査中の論文を閲覧できる編集委員は論文の担当者のみです。しかし新機能の「Conversation Tool (掲示板ツール)」を使用すると、担当以外の編集委員でもその論文を閲覧できるようになります。掲示板ツールは複数のユーザー間で意見交換を行うための機能です。通常の審査フローから独立しており、編集者間の意見交換や第三者の意見が必要な場合などに便利です。

こんなジャーナルにおすすめ!

- 査読意見が分かれた場合など、一つの論文を複数の編集委員で共有することがある
- 採否決定前に編集委員会メンバーでの擦り合わせが必要
- 審査の状況を委員会メンバーで共有している

利用可能なユーザー

Conversation Toolを利用できるのは事務局、編集委員、編集委員長ロールのうち、「Conversation organizer (トピック管理者)」もしくは「participant (参加者)」に設定されたロールです。

トピック管理者と **Manage** **Group** **Posts**

トピック管理者はアクセス可能なすべての論文において掲示板ツールを利用でき、「Manage」「Group」「Posts」すべての画面にアクセスできます。

Manage トピックの作成/終了や参加者の招待などトピックの管理を行います。

Group 複数の参加者をまとめたグループを作成します。編集委員会メンバーなどのグループを作成しておくことでトピック作成時に便利です。

Posts トピックが表示され、各トピックについてコメント入力と参加者のコメントを閲覧できます。

参加者と **Posts**

招待を受けた参加者は該当論文の「論文情報」画面とConversationsの「Posts」画面にアクセスできます。

Posts画面には招待を受けたトピックが表示され、各トピックについてコメント入力と他の参加者のコメントを閲覧できます。

なお査読者の選出や判定など審査に関わる操作は行えません。



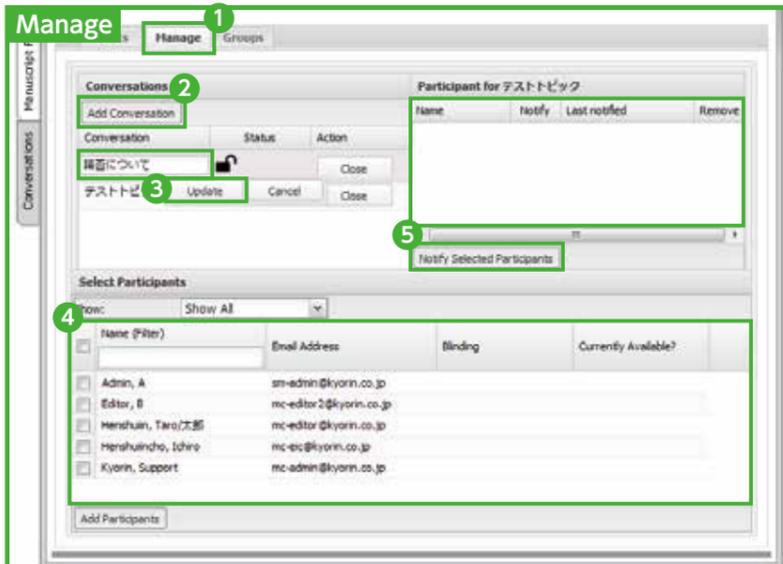
設定をご希望の場合

掲示板ツールの設定をご希望の場合はS1Mサポートセンターまでご連絡ください。

設定後、3ヶ月間はトライアル期間として無料でご利用いただけます。

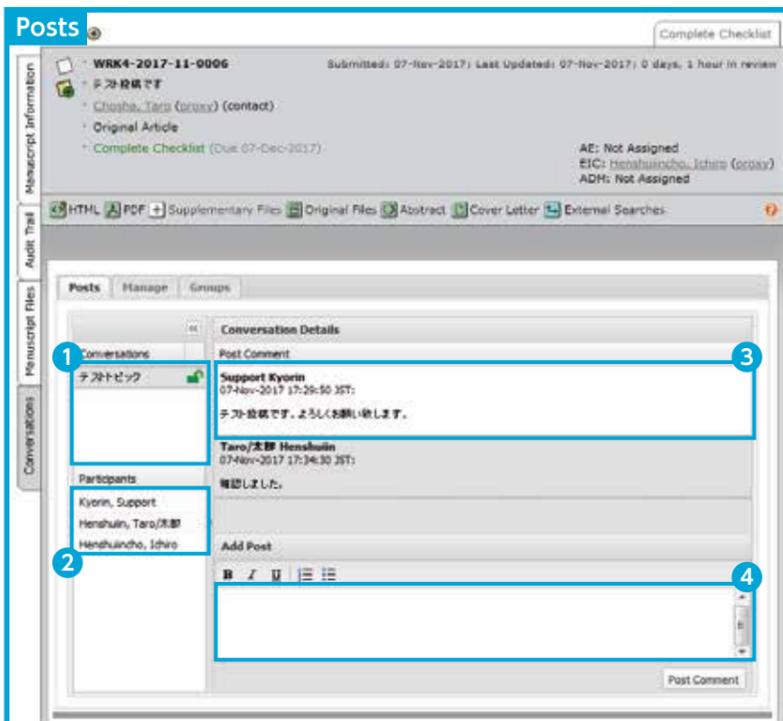
※有償のオプション機能となりますので、トライアル期間後も継続利用をご希望の場合は、本設定料 (30,000円) と年間利用料がかかります。

無料トライアル受付中!



【新規トピックの作成手順】

- ① 論文情報画面左側の「Conversations」タブを選択し、「Manage」を開きます。
- ② 「Add Conversation」をクリックします。
- ③ 新規トピックの件名を入力して「Update」をクリックします。
- ④ 画面下部のリストからこのトピックに招待する参加者を選択し、「Add Participants」をクリックします。
- ⑤ 画面右上の参加者リストを確認し、「Notify Selected Participants」をクリックして招待メールを送信します。



- ① トピックの一覧です。
- ② 選択したトピックに参加しているメンバーが表示されます。
- ③ 投稿済みのコメントが表示されます。
- ④ コメントの入力欄です。上部のアイコンを選択すると太字、斜体、下線などの表現が行えます。

編集後記

今号のSIM NEWSでは海外セミナーで得た情報の提供をメインとし、その他にS1Mの新しいオプション機能Conversation Toolのご紹介をいたしました。弊社では英文誌編集支援チームの担当者が年複数回これらの論文審査や倫理規定に関わる海外のイベントに参加し、そこで得た旬な情報を踏まえて現在提供している自社サービスの内容を見つめ直し、常に最先端のサービスをご提供できるように取り組んでいます。SIMも同様に進化を続け、このたび編集者間で論文の協議を行うためのConversation Toolがリリースされました。ご興味をお持ちの学協会様はぜひサポートセンターへのご連絡をお待ちしております。また、12/7に実施されたSIM v4.22のバージョンアップでは、国内ではまだまだ普及されていませんが査読実績の登録や確認などをジャーナルの垣根を越えて行えるサービスPublonsとの連携向上などが追加されました。詳細については次号のSIM NEWSにてご案内いたしますので楽しみにお待ちください。

S1M NEWS

2017年12月11日発行 第15号

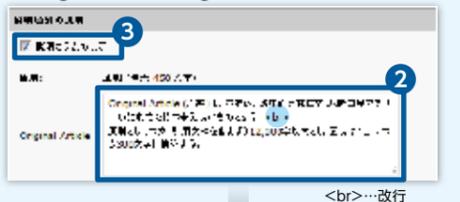
発行 株式会社 杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
TEL. 03-3910-4311 FAX. 03-3949-0230
URL <http://www.kyorin.co.jp>

編集・制作・デザイン 株式会社 杏林舎
E-mail s1mnl@kyorin.co.jp

論文種別ごとの説明文を投稿画面上に表示する

次の設定を行うと論文種別ごとの説明文が投稿画面上に表示されるようになります。

Configuration Settings



投稿画面



- ① 事務局 Dashboard 左下の Setup にある「Configuration Settings (サイト設定)」を開きます。
- ② 「Submission Type Descriptions (投稿種別の説明)」に論文種別と説明文の入力欄がありますので適宜説明文を入力します。またHTMLタグが使用できます。
- ③ 左上の「Show Description Column (説明カラムの表示)」にチェックを入れて保存します。
- ④ 投稿画面の Step1 で文章を確認します。

説明文はなるべく簡潔で読みやすい文章を意識し、またHTMLタグを使って体裁を整えると見栄えもよく投稿者の先生方にとってわかりやすくなりますよ。



こんにちは! 杏林舎の山田です。
今回のテーマは「論文種別ごとの説明文を投稿画面上に表示する」です。
目立つ場所に説明文を表示できるので、本文の文字数や図表の数などの規定が論文種別ごとに異なるジャーナルではぜひお試しください。